

最優秀賞

小松 隼人

小松隼人建築設計事務所

【作品名】
楽々園の家

設 計 小松隼人建築設計事務所
施 工 有限会社 ホームテック
竣 工 日 2016年12月21日

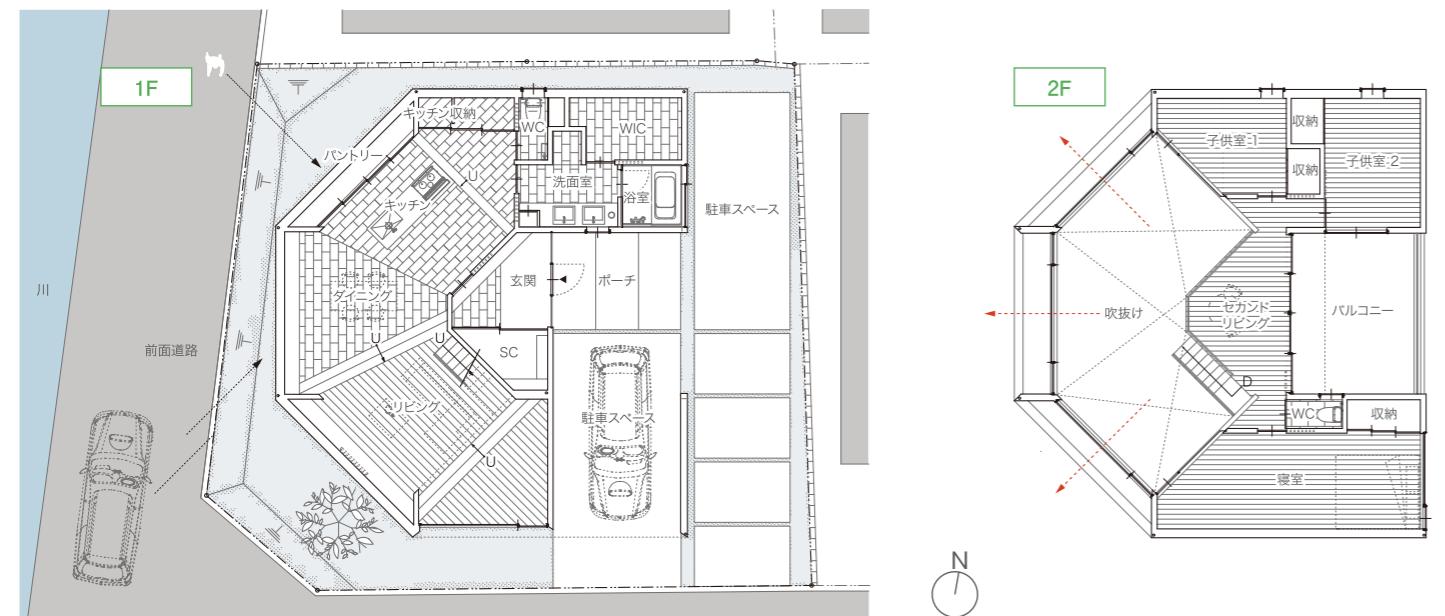
◎建物概要

建 設 地 広島県広島市 延床面積 151.22m²
敷 地 面 積 219.87m² 構造・規 模 木造2階建

◎設備面の特記

厨 房 機 器	IHクッキングヒーター
給 湯 機 器	エコワン
冷暖房機器	エアコン 床暖房(ヒートポンプ式)

平面図



設計コンセプト

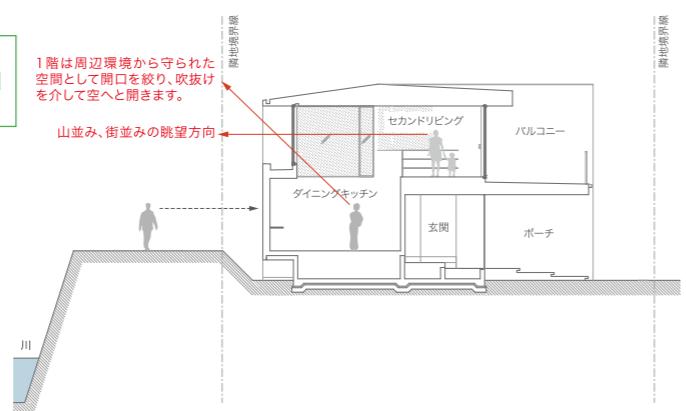
敷地は広島市内西部に位置する住宅地。敷地の西側は道路を挟んで河川が通り、北側を見ると少し込み入った街並みの先に美しい山並みが広がります。この豊かな環境を取り込んだ暮らしを実現したい一方で、川沿いの道路および近隣に通る国道からの騒音やプライバシーの確保を考慮する必要がありました。周辺にはカーテンを閉めて生活している建物が多いため、この場所の豊かさを享受できないと思えます。周囲の環境とどのようにつながり、共存するべきか、境界のあり方について考えながら計画を進めました。

川沿いの西側道路は敷地よりも1mほど高いため、生活の主体を1階として開口を設けたときに道路からの視線ばかりが気になり、遠景の山並みも見ることもできません。そこで、玄関→ダイニングキッチン→リビングの順に床を緩やかに分節しながら

上げていき、2階に設けたセカンドリビングへと連続させました。1階は周辺環境から守られた空間として開口を絞り、吹抜けを介して空へと開きます。2階は吹抜けを介して周辺環境に開いた空間となり、また吹抜けは外部との中間領域（フィルター）としての役割を果たし、セカンドリビング、寝室、子供室といった空間と風景は、フィルターを通して緩やかにつながります。西側外壁は扇状に折れ曲がることで、川の流れから山並みまで広がる風景をパノラマ状に取り込むことができ、その屈折点に設けた壁柱が水平剛性を負担し、木造でしながら大開口を実現しています。外部環境との中間領域を庭や軒下といった外部空間に設定するのではなく、吹抜けという大きな内部空間に設定することで、街と、風景との適度で柔らかなつながりをつくり出せたのではと考えています。



断面図

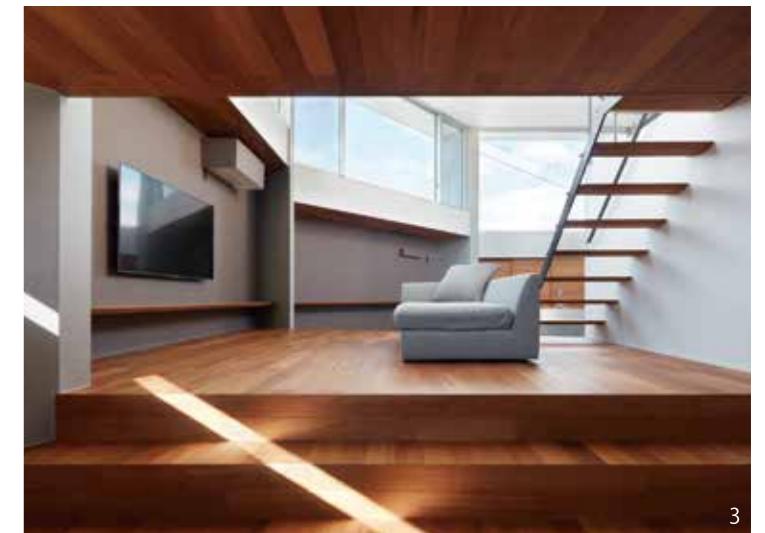


審査委員講評

この住宅が建てられた場所の特徴である山並みや河川の眺望を最大限に取り込んだ明るい住空間が完成しています。機能別に分節した各フロアに少しずつ段差を設け、1~2階に一体感を生じさせた空間からは、ここで生活する家族の楽しさが伝わってきます。周辺からのプライバシーを守りながら、外部空間をパノラマ状に取り込む開口部の計画手法が見事です。



1.省エネを実現するために、開口部はアルミサッシかつLow-Eペアガラスを採用。南向きの開口部は高さ寸法を抑え、山並みの景色側の開口を大きくすることで、日射と眺望をコントロールしています。大きな吹抜けのLDKの床は温水式床暖房を敷くことで、冬期は足下からの暖かさを感じる空間としました。



2.周辺の豊かな環境を取り組んだ暮らしを実現したい一方で、道路からの騒音やプライバシーの確保を考慮する必要があったため、1階は周辺環境から守られた空間として開口を絞り、吹抜けを介して空へと開く設計しました。

3.リビングからキッズスペースへ向かうときの高さを1400mmにしだることで、子供の秘密基地のような遊び場になっています。

4.2階のセカンドリビングからみた風景。外部とのフィルターの役割を果たす吹抜けを介して周辺環境に開いた空間となり、各居室と山並み、河川の眺望と緩やかにつながります。



最優秀賞

平野 毅

一級建築士事務所 平野建築設計室

【作品名】
ヒコサキの家

設 計
施 工
竣 工 日

一級建築士事務所 平野建築設計室
センコーホーム岡山 株式会社
2016年7月30日

◎建物概要

建 設 地	岡山県岡山市	延 床 面 積	35.45m ²
敷 地 面 積	300.00m ²	構 造・規 模	木造平屋建

◎設備面の特記

厨 房 機 器	ガスコンロ
給 湯 機 器	ガス給湯器
冷暖房機器	エアコン

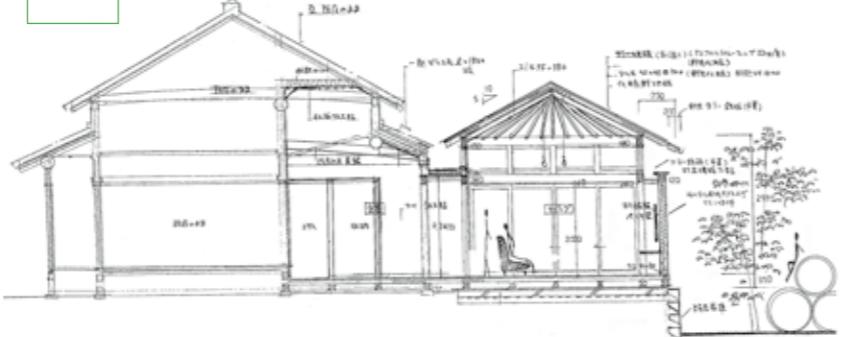


before after

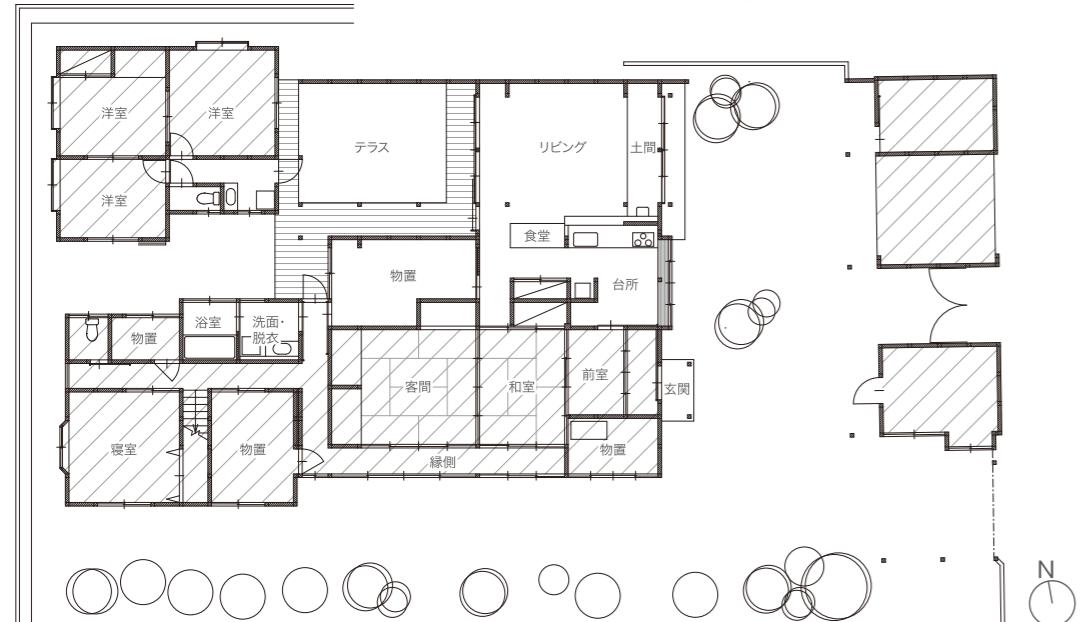


before after

断面図



平面図



設計コンセプト

古くから住み続けられた家のほとんどが増築、改築を繰り返し使われています。

そのため複雑な形になり機能もまとまなくなっている住宅によく遭遇します。この住宅も若夫婦が帰ってくることで、もともとあった離れをリフォームしようと考えていましたが、傷みが激しかった事から同じ位置へリビングを増築、要望はなるべくシンプルな平面にする事であり、新しいものを足すのではなく古い空間を合わせる事で建築全体が新しい空間に生まれ変わるように設計しています。古き良き生活と新たな提案による生活が混ざる事でこれまでにはなかった暮らしのスタイルが生まれる事を期待しています。

子供達が通う小学校が近くにあり、放課後は友達との「アソビ場」になるように、また料理好きの施主が友人をバーベキュー

に招けるように、外と内が一体となる空間を設けました。前庭からリビング、中庭テラスが一体となり子供達が走り回る音や友人達との楽しげな話し声、家族みんなで料理を作る姿などが開口部から周囲に漏れ出し、家の近くを通る人にも感じてもらうことで楽しさをおすそわけしています。

機能的な改善としては、北側にリビングを配置した間取りになりますが、方形の屋根をデザイン的に浮かす事で日中の採光を確保し、電力消費を軽減しています。さらに増築部分を既存の主屋とつなげる事で耐震性機能や、温熱環境の改善も図っています。

審査委員講評

既存建物の北東部への増築。方形の屋根を浮かせて四方から光を取り、既存前庭と新しいテラスに大きな開口でつながるリビングは、のびのびとした気持ち良い空間となっています。台所は既存の改修となっており、新旧が一体となって、より豊かなスペースになっています。中庭テラスは前庭とは雰囲気の異なる場所となっており、方形の屋根を際立たせる外観にも寄与しています。

1. 方形の屋根を浮かす事で日中の採光を確保し、電力消費を軽減。
2. 3. もともとあった離れの位置に新しいリビングを設置。既存の主屋とつなげる事で耐震性、機能性、温熱環境の改善がなされたと考えています。
4. 小学校から帰った子供たちが、放課後に友達との「アソビ場」になるよう、外と内が一体となる空間を設けました。



2



4

優秀賞

春日琢磨

春日琢磨建築設計事務所

【作品名】
五日市の家

設 計
春日琢磨建築設計事務所
施 工
有限会社 アルフ
竣 工 日
2016年8月18日

◎建物概要

建 設 地
広島県広島市
延 床 面 積
136.08m²
敷 地 面 積
221.54m²

構造・規 模
S造、2階建

◎設備面の特記

厨 房 機 器	IHクッキングヒーター
給 湯 機 器	エコキュート
冷暖房機器	エアコン



1Fレベルは、浸水レベルより上になるよう設計し、碎石で道路レベルとつなげています。



1.夫婦共通の趣味であるロードバイクや、夫の趣味である釣りなどを、アクティブに満喫されており、趣味のギアたちに囲まれた生活をしたいというのが施主の要望でした。そこで、玄関を兼ねた吹抜けの土間スペースを庇下空間と一体的に使える、大きな趣味の空間として提案しました。



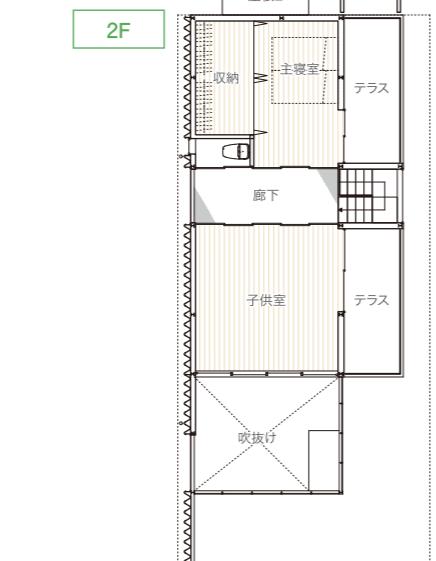
設計コンセプト

広島市内に建つ、夫婦と子供二人のための住宅です。夫婦は共通の趣味としてロードバイクを愛し何台も保有されていました。またご主人は船釣りも嗜み、オーディオや家具にも興味があるなど、非常にアクティブな生活を楽しんでおられます。

その暮らしぶりから将来的に趣味が多岐に渡ることは容易に想像でき、同時に好きなものに囲まれ幸せに暮らす家族像が思い浮かび、とにかく大きな気積の中で、伸び伸びと好きな暮らし出来る「余白のスペース」を持つ空間を造りたいと考えました。

限られた予算や条件の中で最大の気積を獲得するため、最低限雨風をしのげる空間を建ぺい率いっぱいに立ち上げ、その中に生活の場を必要に応じて設えることにしました。具体的には、経済性や強度に優れ工場などで採用される、はぜ締めタイプの折板を隣地アパートに面する西壁面と屋根面に採用し、地面から立ち上がるL型の軒下空間を立ち上げました。

20m近い奥行きを持つL型の軒下空間に生活空間を敷地奥



審査委員講評

北側からコンパクトに並べていき、軒下空間の1/3を「余白のスペース」として確保。そこに緩衝帯として玄関を兼ねた7畳程の土間スペースを設けました。安定した生活性能を担保した生活空間、半内部の土間スペース、半外部の軒下空間と仕様も性格も異なる各空間が違和感なくシームレスで相互依存的に混在するように、副資材を排除した軒下空間の柱・大梁のみのシンプルな表現や、土間スペースの床仕上、木建・アルミサッシの使い分けなど慎重に計画しました。

違和感なく各空間が混在した状態で6mの高さをもつ軒下空間に包まれると、1階レベルでは軒の存在や各領域を感じなくなり、不意に外部と内部の境界が曖昧になる瞬間が訪れます。

この曖昧さは暮らすうちに内部のものが表示したり、外部にあるべきものが内に入ってきたりますます進んでいく、趣味や好きなもので「余白のスペース」を埋め尽くしていく、生活領域が外部まで拡張していくのではと期待しています。



3.庇下の半屋空間は、小さなお子様の格好の遊び場であると同時に、通りがかる近所の人々との交流の場ともなります。また土間空間は、閉じて完全な内部としても使えますし、プライベートな内部空間と仕切って、庇下の半屋空間と一緒にすることも可能です。このことは、内部と外部(地域)との境界をぼかし積極的に地域とつながる手助けとなっています。

4.各スペースを並列に配置することでキッチンから、土間でくつろぐ夫越しに外で遊ぶ子供の姿を感じられたりと、建物の奥からも一望できます。

5.6.子供室と寝室は、FRPグレーチングの廊下を挟んで一体化できます。子供室と土間の吹抜けも木製建具の採用により、上下のつながりを生んでいます。



5
6

優秀賞

原 浩二

原浩二建築設計事務所

【作品名】
桧合板の家

設 計 原浩二建築設計事務所
施 工 八光建設 株式会社
竣 工 日 2017年2月15日

◎建物概要

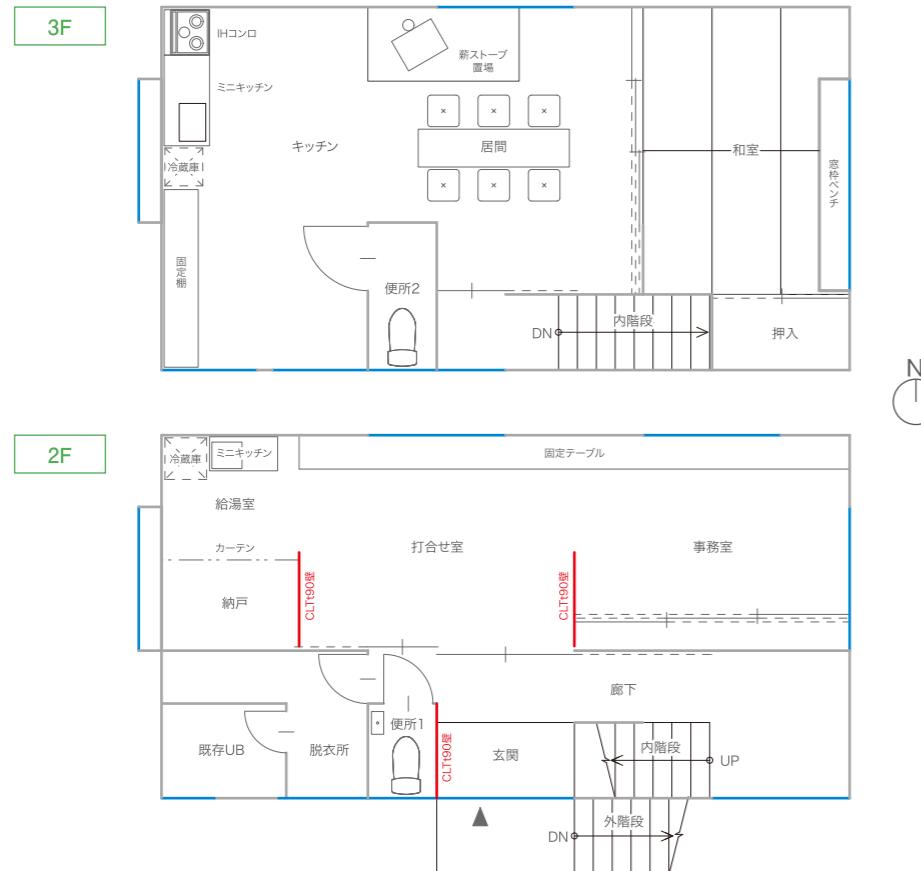
建 設 地 島根県松江市 延床面積 87.36m²
敷 地 面 積 不明 構造・規模 木造3階建(1階RC造)



◎設備面の特記

厨 房 機 器	IHクッキングヒーター
給 湯 機 器	ガス給湯器
冷暖房機器	エアコン 薪ストーブ

平面図



設計コンセプト

母屋の隣にあった、1階がRCの駐車場、2・3階が木造の離れのリフォームである。もともと社会活動等に積極的であった施主(女性)が「自分のオフィススペース」+「家族のサブスペース」+「活動のためのフリースペース」として使うことを考えた改装。

2階をオフィス、3階を居間兼フリースペースとしたが、構造的には、2階に厚さ90mmのCLT(クロスラミネイトティンバー)を3枚配し、既存壁も桧合板t12mmを張りめぐらすことで強固な耐震性能を確保した。この構造体が同時に空間の大部分をしめる仕上材となっていて、通常の針葉樹合板よりもわずかに優しい雰囲気をつくりだしている。また部分的に施主の女性らしい好みのクロスや床材、あるいはトイレに使った古いドア等が単調になりがちな構造的空间に適度な「色」を加えている。

審査委員講評

断熱的には壁=GWt100/24kg、天井=GWt100/10kg×2重敷、そして3階に薪ストーブを設置した。完成後1年近くが経とうとしているが女性を中心としたセミナー、料理教室等、積極的に利用されているようである。



1.2.薪ストーブを設置した3階は施主の仕事関係や日頃の地域活動に関する仲間が気軽に集まれるスペースになっている。



3.4.2階は自営業を営む施主のためのオフィススペース。耐震壁のCLT壁2枚を仕切壁として配置している。トイレのドアは施主からの支給品の古い建具。壁面収納の扉はポリカ波板をカーテンレールに吊るしている。

5.6.施主の女性的感覚を取り入れた“かわいい”床材。

全体的に木質系の空間の中でアクセントになっている。



5 6

佳作

三宅 正浩

株式会社 y+M design office

【作品名】
六・五の間

設 計 株式会社 y+M design office
施 工 株式会社 平田組(ASJ米子スタジオ)
竣 工 日 2015年12月21日

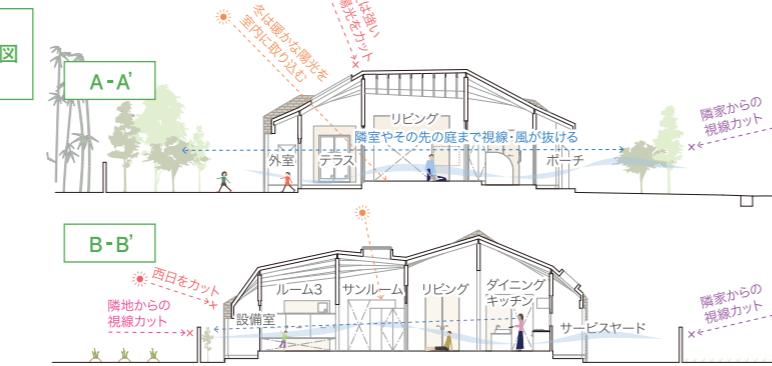
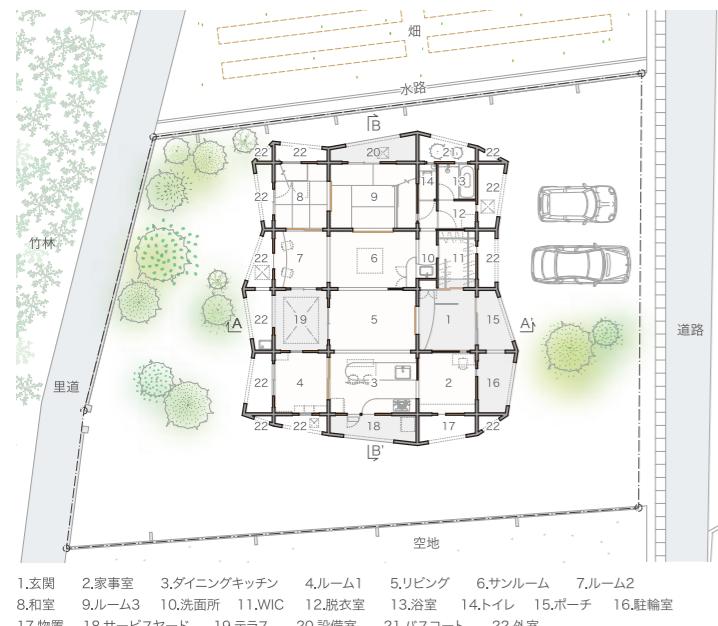
◎建物概要

建 設 地 鳥取県境港市 延床面積 105.20m²
敷 地 面 積 475.45m² 構造・規 模 木造軸組工法・地上1階建

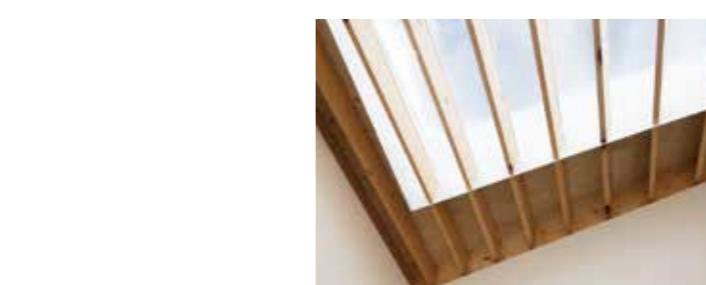
◎設備面の特記

厨 房 機 器	ガスコンロ
給 湯 機 器	エコワン
冷暖房機器	エアコン 床暖房(ヒートポンプ式)

平面図



1.2.厳しい自然環境とプライバシー確保を考慮し、平屋の中に屋外スペースを含む30の部屋をグリッド状に配置。外室により形成された中間領域が、夏の強い日射しを遮るとともに冬の積雪から住環境を守り、厳しい自然環境をコントロールする装置になる。さらに、グリッド状に並べた居室と効果的な開口配置により建物全体の通風と採光を確保し、あまり機械設備に頼らずに快適に過ごすことができる。また、各スペースで異なる天井高と連続する門型の木壁の先に様々な方向へ視線が抜けることで、実面積以上に広く感じられ明るく開放的な空間となった。



設計コンセプト

鳥取県境港市は1年を通じて比較的の風が強く、山間部に比べると少ないながらも冬季には積雪のある地域である。計画地の南側に既存の前栽と向かいに広がる竹林、北側に道路を挟んで神社の駐車場、西側に畠が広がり、東側は雑草が生い茂る空き地があった。

冬季の厳しい自然環境と近隣からのプライバシー確保、要求されるスペースの数を考慮し、平屋の中に屋外スペースを含む6×5=30の部屋をグリッド状に配置する空間構成とした。

各部屋に必要な天井高と外部への自然な雨水勾配も確保するため、グリッドの交点レベルを調整した。また周辺環境との関係性によって、外壁が折れ曲がりながら適切な距離をとり、外周部の軒の高さを低くおさえている。

この外周部に配置した外室により形成された中間領域は、夏の

強い日射しを遮るとともに冬の積雪から住環境を守り、厳しい自然環境をコントロールする装置になる。同時に近隣からのプライバシー確保にも寄与する。内部と外部をゆるやかにつなぐインターフェースとして機能する外室によって、建物内外の境界があいまいになり、内外の関係性がより強くなる。

そして、30の部屋は構造に必要な壁を残して穿たれた開口によってつながり、各部屋の用途とつながりを考慮して、木製家具のような薄い壁で開口部の大きさを調整している。各部屋は、個室として使えることはもちろん、2~4の部屋をつなげて使うことができ、大勢の来客時にも対応できる。また家族それぞれの部屋を固定せずに、家具レイアウトを変えるようにそれぞれの部屋を入れ替えることで、家族の成長や変化にフレキシブルに対応できる空間計画とした。

審査委員講評

単純なグリッドで構成された廊下のない家。各グリッドは単純な片流れ屋根ですが、どのグリッドにおいても性質の異なる室空間が四方に拡がり、どの場所にいても異なる体験を楽しめます。外部では変化に富んだ形の屋根と、同じ材料でつくられた外壁によって、新鮮な外観をつくり出しています。既製概念に捕らわれない家の造り方によって、新しい生活風景が浮かんできます。

- 3.来客時にはアウターリビングとして使えるテラス。
- 4.隣接する居室を個室としてだけでなく、ひとつながりの空間として使うことができる。



佳作

塚本 雅久

塚本雅久建築設計事務所

【作品名】
露路のある家

設 計 塚本雅久建築設計事務所
施 工 株式会社 川崎建設
竣 工 日 2017年2月17日

◎建物概要

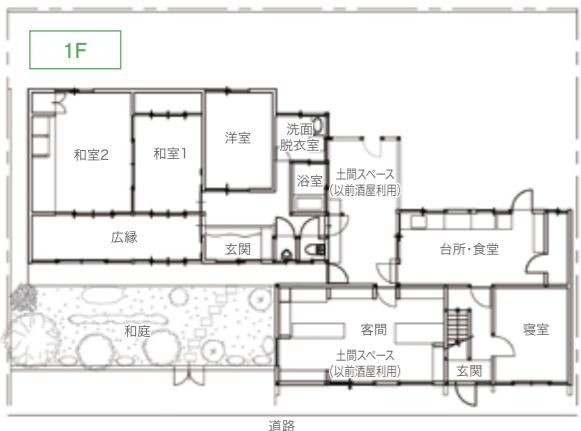
建 設 地 広島県福山市 延床面積 210.46m²
敷 地 面 積 310.73m² 構造・規 模 木造2階建

◎設備面の特記

厨 房 機 器	IHクッキングヒーター
給 湯 機 器	エコキュート
冷暖房機器	エアコン

平面図

リフォーム前



リフォーム後



設計コンセプト

敷地は福山駅（城）と芦田川の中間地点の街にある。息子夫婦が2世帯として住むために、築48年の住宅に新たな居住空間を挿入するリノベーションであった。また、改修直前は居住空間であったが、以前は酒屋として利用していた空間を住宅の用途として再構成する必要があった。既存建築は南側前面が道路に面しているため、南側の部屋はカーテンや着物（よしす）で閉鎖的になっていたり、玄関は利用されていない状況があったので新たに2世帯として再構成した。要因として周辺環境との関係性を構成するための「格子」。南北への動線を容易に確保する柔軟な住空間のための「露路」を新旧2世帯を調和するかのように計画した。「露路」は隣地との境の空間であり、千鳥張のラワン合板や既存開口部を利用した吹抜けから太陽光や風を入れ、外部を感じる路地空間とした。太陽光と風は

隣接するLDKと2階室1に及び環境を改善し、パッシブな装置として機能している。冬には南側玄関から北側勝手口まで直通しているので、閉じる事により日照の少ない東側のベリメータージーン対策ともなり、LDKから露路の壁面を画面として切り取り、ギャラリーや床の間のような利用方法も提案。作品をやわらかな光が照らす。壁や天井のラワン合板は、千鳥張の無着色の塗装とし、コラージュ的な空間とした。「格子」は、酒屋であった店舗のためファサードは和のデザインがされていた。木製見切、銅板の錫張り瓦底の一文字書き。これを覆うように1階部分に切子格子を設置。外部には街並みの調和を形成し、内部には光と風を取り入れながら懸念事項の視線を調整し、リズミカルで軽快なデザインとした。

審査委員講評

最少の努力で最大の効果を実現しています。外壁を塗り替え、格子を設置するという仕掛けがファサードの印象をこんなに大きく変えることになるとは驚きです。また、屋内に路地空間を設けるという仕掛けが生活の楽しさと多様さを生み出しています。

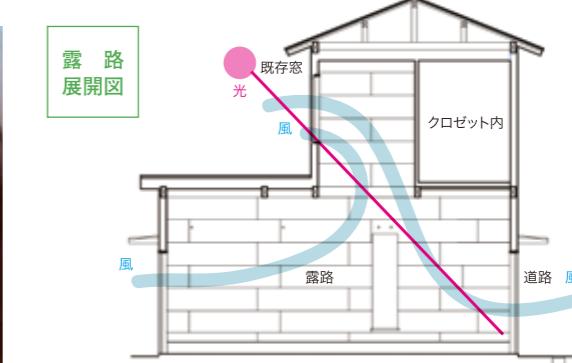
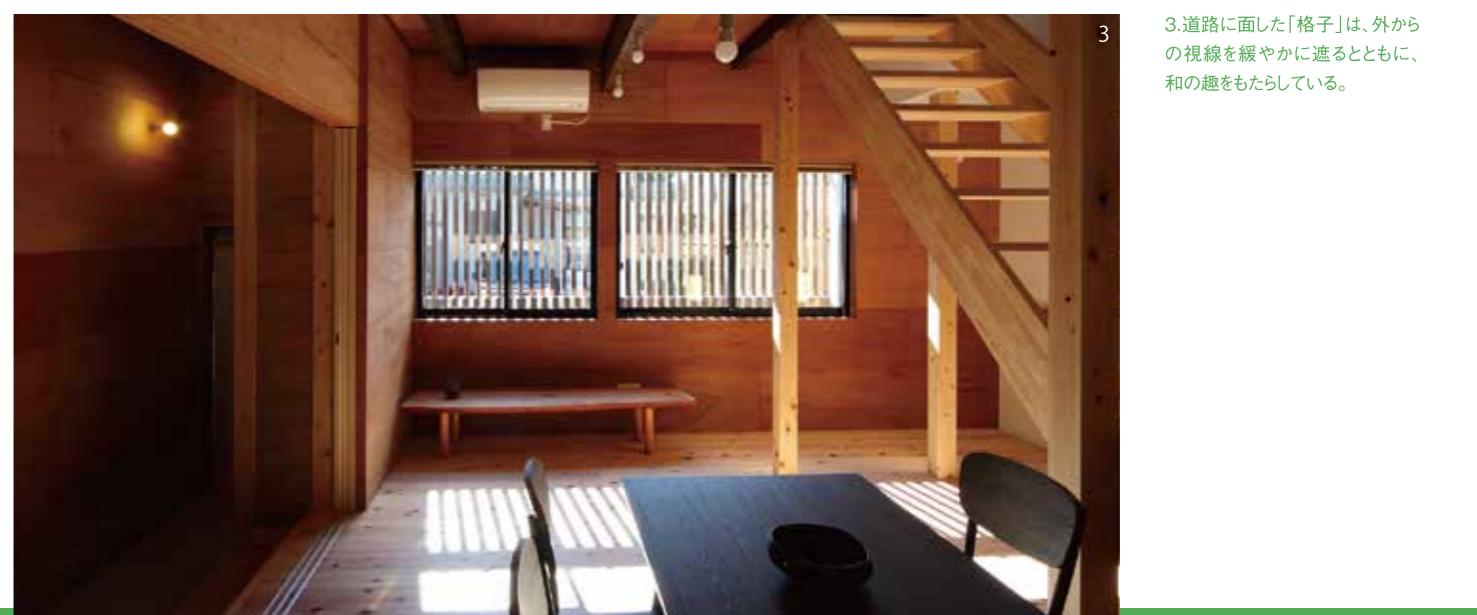
3



before



after



1.2.隣地との境となる露路には、千鳥張のラワン合板や既存開口部を利用した吹抜けから太陽光や風を入れ、外部を感じる空間とした。隣接するLDKと2階室にも光と風を運び、LDKと一緒に利用する事により開放性を持たせている。



3.道路に面した「格子」は、外からの視線を緩やかに遮るとともに、和の趣をもたらしている。



鳥取県

木村 智彦

グラムデザイナー級建築士事務所

【作品名】
日吉津の家

設 計 グラムデザイナー級建築士事務所
施 工 株式会社 辻工務店
竣 工 日 2017年8月10日

◎建物概要

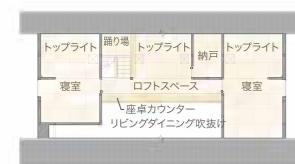
建 設 地 鳥取県西伯郡 延床面積 172.03m²
敷 地 面 積 463.32m² 構造・規 模 木造2階建

◎設備面の特記

厨 房 機 器	IHクッキングヒーター
給 湯 機 器	エコキュート
冷暖房機器	エアコン

平面図

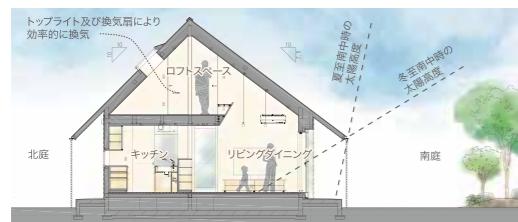
2F



1F



断面図



1. グランドレベルで内部に取り入れる空気も、ロフトスペースで効率良く外側に換気出来るよう配慮している。



1

2. 親族で集まることが多いため、続き間とリビングダイニングは一体で使えるように考えている。



2

3

4

設計コンセプト

この場所に生まれ育った奥様とご両親、建て替え前から同居していた旦那様と2人の子供、3世帯6人家族の住まいの建て替えである。建て替え以前は、使われなくなった倉庫や蚕小屋も母屋に併設されており、配置やプランの影響で、採光の面では居間の窓もほとんど機能していなかったが、必要なものだけを建築し、母屋の南北に庭をつくるスペースを残して母屋を配置することができた。屋根はシンプルなほど美しく機能的である。最も屋根らしいカタチが切妻だと感じている。軒は低く出することで、

機能的に外壁を雨風から守り、心理的にも外と内との中間領域として機能する。また、平面をコンパクトにすること、屋根勾配なりの気積を絞ることにより、家族の距離感が遠くならないよう、屋根を大きく見せる切妻とすることにより、新たに建て替える住宅でありながら、以前からこの場所にあったかのような落ち着いた佇まいとなるよう配慮した。少なくとも自分がつくる住宅は、住い手の内面的な心の風景を作り出す場であるよう考えてつくりたいし、その心の風景は家族に共有できるモノであって欲しい。素朴で風景に馴染む



島根県

原 浩二

原浩二建築設計事務所

【作品名】
灰色の家Ⅱ

設 計 原浩二建築設計事務所
施 工 株式会社 トガノ建設
竣 工 日 2016年12月9日

◎建物概要

建 設 地 島根県出雲市 延床面積 110.33m²
敷 地 面 積 238.02m² 構造・規 模 木造一部鉄骨造2階建

◎設備面の特記

厨 房 機 器	IHクッキングヒーター
給 湯 機 器	エコキュート
冷暖房機器	エアコン



1. 地内の共有空き地であった東側向きに建物を配置。片流れの屋根で家を包みこんだ。大きな軒や植栽、内部土間がプライバシーを確保しながら近隣との適度なつながりをついている。



2. 共有空地に面してパレットデッキを置き近隣住民との憩いの場を設けた。



2

平面図

2F



1F



1F



3. 内部は陰影のある少し暗めの空間で、ディティールはあえて少しずつ変化させる事が微妙な空間の豊かさにつながればと考え、素材もバランスを考えながら多めに使用している。

設計コンセプト

30代のご夫婦と女の子の4人家族の住宅で、敷地は出雲の中心部からは少し離れている。のどかな土地ではあるが、いくつかの住宅が集まっている造成地でした。設計にあたり思い描いたのは、山陰の気候風土に「無防備な」庭やデッキテラスが気持ちよく使えるだろうか。眺めるだけの庭にはしないだろうか。洗濯物を干すためだけの場所にならないだろうか。シンプルなだけの空間、シンプルなだけのデザインは本当に住みやすいのだろうか。その家族の生活をデザインできているのか。家族が住み始めた時のほうが良い家になるのだろうか。プライバシーを守りながらも隣近所との関係を作れるだろうか。今まで

設計してきた家は明るすぎなかったか。植栽ってやっぱり良いなあ、等々。それらを考慮しながら、東側の土地が団地内の共用空地ではあるが、いくつかの住宅が集まっている。設計にあたり思い描いたのは、山陰の気候風土に「無防備な」庭やデッキテラスが気持ちよく使えるだろうか。眺めるだけの庭にはしないだろうか。洗濯物を干すためだけの場所にならないだろうか。シンプルなだけの空間、シンプルなだけのデザインは本当に住みやすいのだろうか。その家族の生活をデザインできているのか。家族が住み始めた時のほうが良い家になるのだろうか。プライバシーを守りながらも隣近所との関係を作れるだろうか。今まで

審査委員講評

大胆な切妻屋根が内部空間、外観に活きています。

審査委員講評

屋根を使った内外及び共用空地とのつながり方が新鮮です。



岡山県

野田 大策

ARTBOX建築工房一級建築士事務所

【作品名】
西七区の家

設 計 ARTBOX建築工房一級建築士事務所
施 工 ARTBOX建築工房
竣 工 日 2017年7月28日

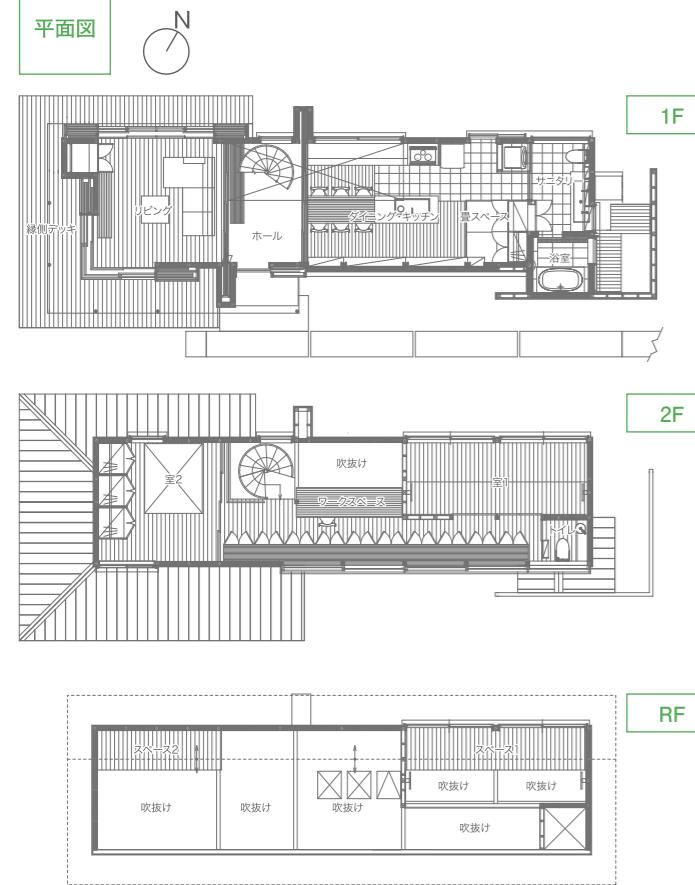
◎建物概要

建 設 地 岡山県岡山市 延床面積 102.44m²
敷 地 面 積 378.57m² 構造・規 模 木造2階建

◎設備面の特記

厨 房 機 器	IHクッキングヒーター
給 湯 機 器	エコキュート
冷暖房機器	エアコン

平面図



設計コンセプト

のどかな田園風景の広がる岡山市郊外に位置する敷地。南方向には、この地域の人たちに「児島富士」と親しまれてきた常山(つねやま)が望める。まず常山を望むためにリビングの位置と開口部の位置が決まる。無垢材を多用したい事、またそのためなら家が小さくなても構わないという意向から、いかにコンパクトながらも広さを感じることができるかを考えた。どのように外部空間を取り込み、中間領域をあいまいにし、外部とつながるはどうするかを考えた。まずは建具を開け放つことができる事。次は天井と軒天の仕上げを合わせ、内と外との境界をあいまいにする事。さらにはあいまいさを増すために鶴居を無くす事。外への意識を向けるため天井高さは2100mmとしている。広さの感じ方は風船で例えることができると思っている。例えば風船を

上から押されると横へと広がっていくように、空間も天井を低く計画すれば外部へと意識が広がって行くように思う。もちろん、開口部の検討も重要であって、広がって行く先が無ければ窮屈極まりない空間になってしまふ。天井高2100mmの開放感を味わってほしいとこのリビングを計画した。坪数が30坪程度、間口が2間とコンパクトな住宅なので、妻方向の耐力壁に頭を悩まされた。幸いにも今回の敷地には余裕があったため、耐力壁を外部へ。同じく頭を悩ませていた襖や障子も、空間を仕切ったりつなげたりする建具の全OPENの戸袋も兼ねる事とした。南側の戸袋はアプローチからのリビングのプライバシー確保にも一役かっている。ダイニング南側のサッシにはカーテン等を計画していない。



広島県

花本 大作

花本大作建築設計事務所

設 計 花本大作建築設計事務所
施 工 株式会社 三四五屋
竣 工 日 2017年2月15日

◎建物概要

建 設 地 広島県呉市 延床面積 126.14m²
敷 地 面 積 426.13m² 構造・規 模 木造地上2階建

◎設備面の特記

厨 房 機 器	IHクッキングヒーター	
給 湯 機 器	ガス給湯器	
冷暖房機器	エアコン	床暖房



1.南面の開口部を抑えると同時に深い軒を設けることで、直射日光をコントロール。分節した建物ボリュームのいずれにハイサイドライトを設け、効果的に採光している。



2.生活の中心となる主室と敷地高低差を活かし半階上げた家族室を視覚的につなげることで、家族の気配を感じながら、伸びやかに生活したいと言う施主の要望に応えた。



3.風景を切取った開口部からは家並み(近景)や空・山(遠景)を眺めることができる。

設計コンセプト

傾斜地に沿って不規則に古い民家が建ち並ぶ集落に建つ住宅である。この集落を初めて歩いたとき、地形に張り付くような家並みとその隙間から見え隠れる山々の稜線や空に強く魅力をを感じた。設計するにあたってはそうした周辺環境とのつながりを主題とした。

そのため、敷地内にある高低差を活かした2階建てと大小2つの平屋からなる3つのボリュームに分節することで問題を解決した。平面計画では敷地をぐるりと囲む家々との距離感を丁寧に読み解き、建物をずらしながら不整形な敷地になじませている。また、主室と半階上がった家族室を視覚的に結び、適度に一体感を生み出している。

断面計画においては、約130坪の敷地に一般的な総2階建ての建物を配置すると、湖にボツンと浮かぶ島のよう、敷地内外どちらにとっても落ち着かない環境になると考へた。しかし、平屋の大きなボリュームでは周囲の住宅スケールと馴染まない。

やボリュームのいずれで立体的に光を取り入れている。外観については屋根勾配を周囲に多く見られる瓦屋根に合わせ、軒を薄く深くすることで抽象化し、近景や遠景との調和を図っている。

おおらかで抜けのある空間は、絶えず変化していく光の移ろいを味わえると同時に、家族の気配を感じながらのびのびと生活することを可能なものとする。

また、適所に設けられた開口部からは、周囲の家並みや山々、空との関係性を感じ取ることができる。

審査委員講評

的確な素材選びとディテールで、開放感のあるスペースが気持ち良いです。

審査委員講評

周囲とのバランスが良く、奥へと抜けてゆく空間が気持ち良いです。



山口県

玉井 清隆
有限会社 玉井工務店

【作品名】
土間の家

設 計 有限公司 玉井工務店
施 工 有限公司 玉井工務店
竣 工 日 2017年9月1日



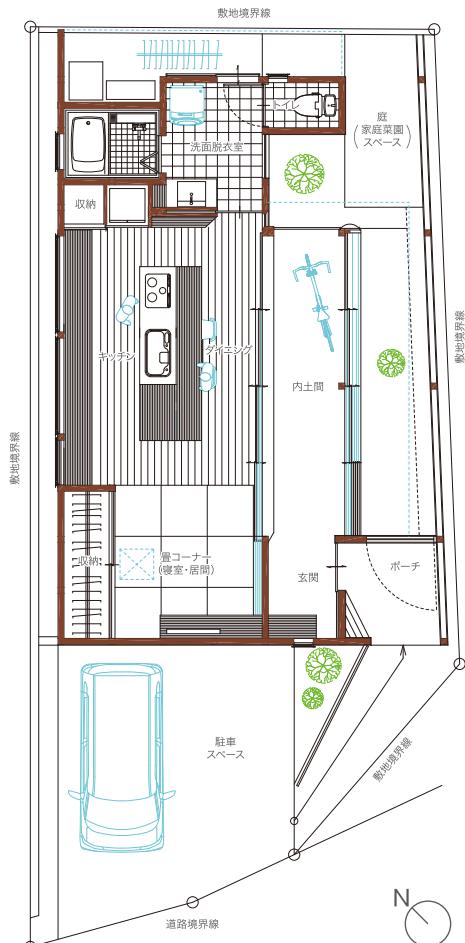
◎建物概要

建設地 山口県下関市 延床面積 46.78m²
敷地面積 112.45m² 構造・規模 木造平屋建

◎設備面の特記

厨 房 機 器	IHクッキングヒーター
給 湯 機 器	エコキュート
冷暖房機器	エアコン サーマ・スラブ(土間) スマート・サーマ(居室)

平面図



1.外土間と内土間の境にある木製建具と、内土間とLDKの境の4枚障子は、全開口する事で敷地全体を使った広々とした空間に変化する。外と中をつなぐために、素材や仕上げを同じにする事で、視覚的に広がりを生む空間にした。



2.北側の窓は高い位置に設け、天井勾配そのままに窓へ。窓下部分も斜めにする事で広角に自然光を取り込み、窓台部分の埃もたまりにくくと考えている。障子の上部(鴨居の上)はオープンにし、障子の下部はスリットにする事で空気がゆっくり対流する。

3.この住宅は室名と目的がリンクしない。玄関土間で食事をすれば玄関がダイニングに。リビングに布団を敷けば寝室になる。自分たちの気分に合わせ自由に住める家こそ「愉しむ住まい」ではないだろうか。

設計コンセプト

32坪の敷地面積に14坪の平屋住宅の計画である。クライアントは50代のご夫婦で、土間のある家が欲しいと依頼を受けた。14坪のうち3坪を内土間とし、木製建具で外土間とのつながりをつくる事を意識しながら設計した。敷地いっぱいに広がる空間を生みだすために、南側の板壁は敷地の形状に合わせて斜めに。そうする事でより奥行きを感じる空間づくりにつながっている。空間の広がりを感じてもらい、土間が常に生活の一部となるような暮らしを想像。色々な所に硝子を取り入れ抜け感をつくる事で、実際の面積以上の感覚を住まい手に与えたいと考えた。

この住宅は全館床暖房を採用し温熱環境のパリアフリーとなっている。内土間の下には床暖房パネル(サーマ・スラブ)を搭載する事で、土間空間もボカボカと暖かい。冬場ヒンヤリとする土間の弱点をコンクリート土間が蓄熱体となる事で解消。また無機質なコンクリートの表面を豊模様にする事で、実際に歩いてみると「柔らかい」という感覚が生まれている。南側の軒は1.2mと深く出すことで夏の暑い日差しは内土間の手前までしか届かない。また隣家2階窓からの視線を遮る役割も担い、雨から木製建具も守っている。限られた空間の中でクライアントの想像を超える提案を

する事で、感動する住まいが生まれてくると思っている。要望一つ一つを整理しシンプルで機能的なこの住宅は、ご夫婦にとってお気に入りの居場所となっている。

審査委員講評

コンパクトだが、内土間と外土間によって、広がりのある生活空間となっています。

最優秀賞

竹田 勤・久保田 愛梨・村井 芽衣
穴吹デザイン専門学校

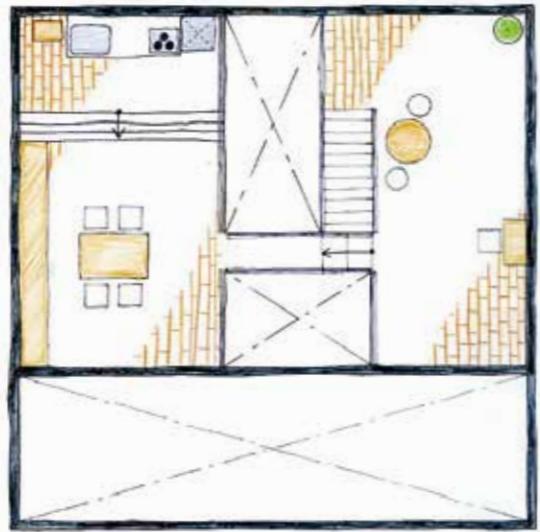
【作品名】
ウチ庭のある暮らし



平面図

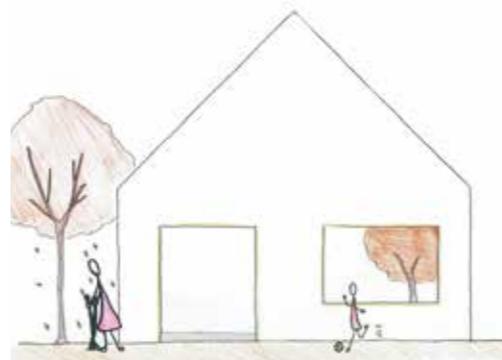


1F



2F

立面図



断面図



設計コンセプト

私たちが暮らしている町では、何かしらの工事を見かけることは珍しくありません。日々建物は壊され、新しい建物が建設されています。住宅においても同じことが言えるのではないでしょうか。住み手のいなくなった住居は放置され、経年変化と共に老朽化し、解体されていく時代です。そこで、私たちは建て壊しが予定されている住宅街へ「ウチ庭」を持つ住宅を提案し、ずっと住み続けることができる住宅にします。「ウチ庭」とは建物の一部を減築し、地域に対して小さな共用空間をつくることをいいます。そこは、近所の人たちが集まって他愛もない話をしたり、子供たちの遊び場となったり、日向ぼっこをしたりと様々な用途で使われます。通りには「ウチ庭」の緑が顔をだし、「ウチ庭」での活動や植物の様子が外に流れ出すことで周辺との緩やかなコミュニティを

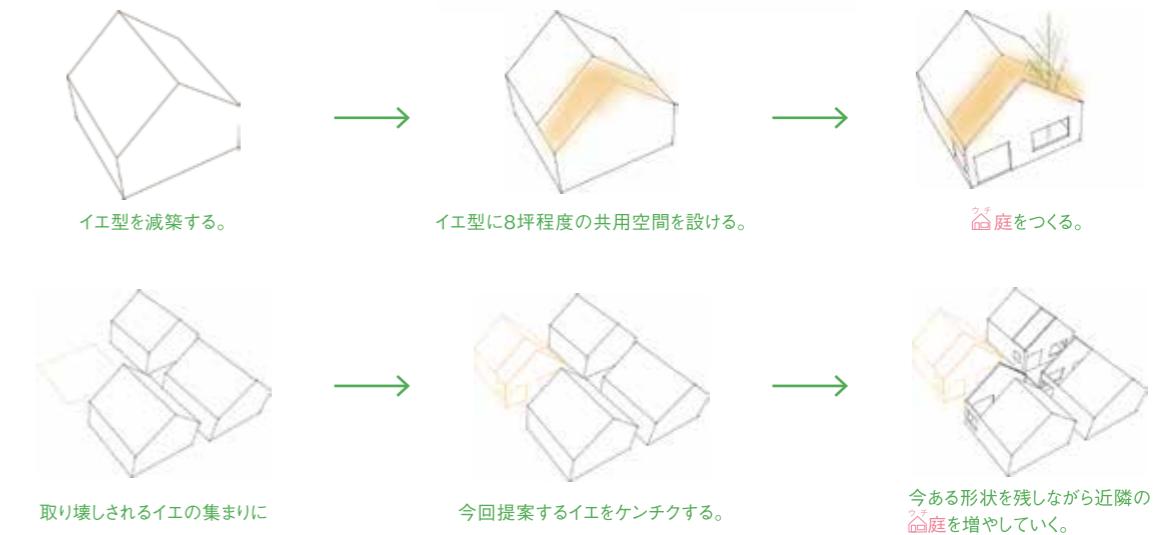
形成します。また、周辺地域への対応として、時間の経過と共に「ウチ庭」を持つ住宅を増やしていきます。人のライフスタイルの変化と同様に、住宅の「ウチ庭」も成長し変化することで、ここに住む人々やその土地に根付き、地域とのつながりが育まれていくのではないかでしょうか。

さらに、「ウチ庭」を家の形にすることで新しく提案する住宅と現存する周辺の住宅が馴染み、共存することを目的としています。大人はもちろん、子供たちは日々の生活で「ウチ庭」を通して人々とのコミュニケーションを楽しみ、成長します。年齢を重ねていく人々の記憶の中で、日常の「楽しさ」が「懐かしさ」と変わっていくのではないかと私たちは考えました。

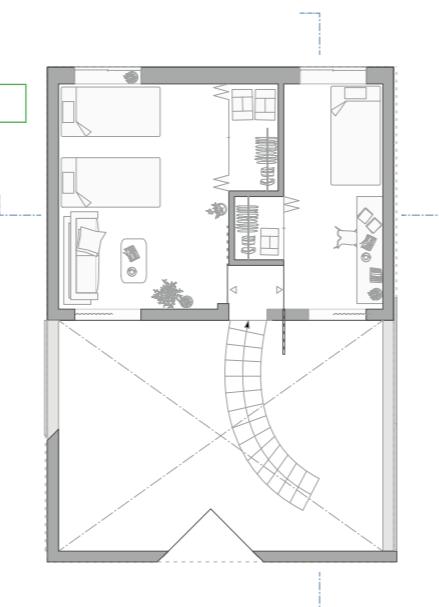
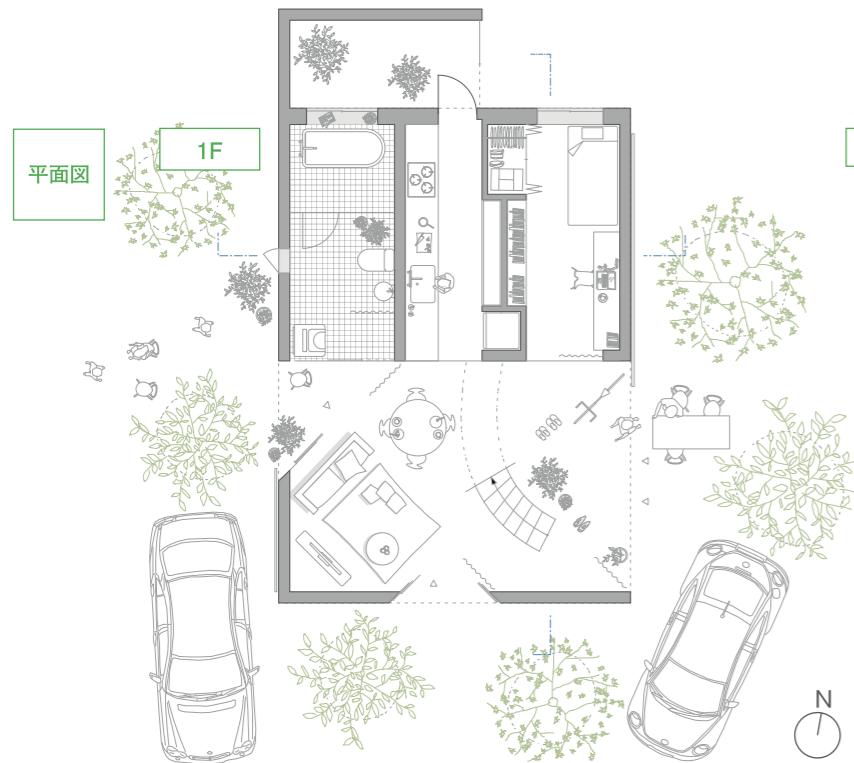
審査委員講評

「ウチ庭」というタイトルが目をひきました。建物を減築し、そこに家型の庭を作り、街並み、家並みを残そう、受け継ごうというコンセプトが明快に伝わってきます。スクラップ＆ビルドが当たり前の私たちの日常を改めて見つめなおす機会を与えてくれた提案です。そう「もったいない」ですからね。

ダイアグラム

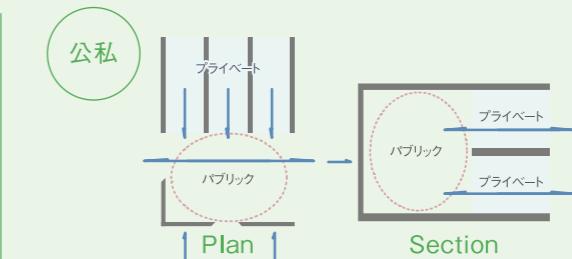
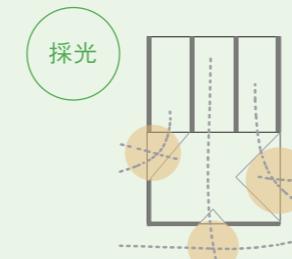
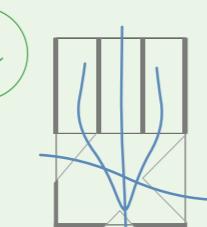
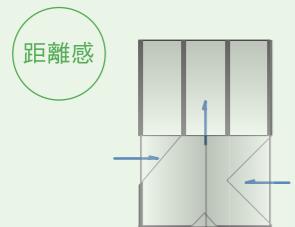


優秀賞

岡本 晴美
広島工業大学【作品名】
誘われる庭の家

設計コンセプト

太陽の光はいつも温かく、木々のやすらぎと、人と人がつながるきっかけが生まれる家を提案する。



家の周りには、環境の流れや人の流れを生み出すための風の道、光の道、視線の道を確保。また東西の近隣住宅と連続するように庭を配置し、新たなコミュニケーションが生まれる場を生み出す。同時にプライベートな空間を成立させる。

街との距離感、リビングとの距離感を調整し、安心感のあるプライベート空間と、地域とつながる開放的なパブリックリビングへ。生活を周辺に開くとともにプライベートな空間を成立させる。

開口の前に植栽を配置し、やわらかく他の視線を避け、街に豊かな景観と抜けを与える。くぼんだ土間から自然が家の中に入り込み、環境が一体となる住空間を生み出す。

2階まで吹き抜けたリビングがサンルームの役割を果たす。プライベートな個室はリビングより光を受ける。リビングは明るく、個室は落ち着ける空間となる。

パブリックリビングを核に、様々な関係がつながる。各個室が、吹き抜けたリビングを介して緩やかにつながる。家族のくつろぐ場は、土間空間により周辺にも拡張する。南側の視線を遮りつつ、東西の拡張する庭が関係を結んでいく。

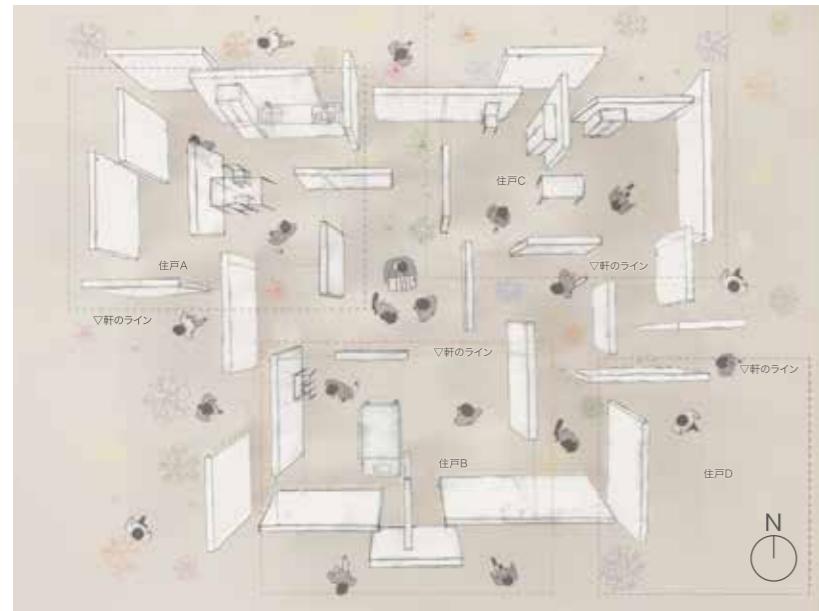
審査委員講評

近隣とのコミュニケーションが生まれやすい家の「型」の提案。リビングを住宅の一部ではなく、近隣につながる庭に近い概念でとらえたときの家と街の在り方の可能性を追求した作品です。理詰めで模式図的作品ですが、生活のイメージが思い描ける提案となっています。同じ「型」の家が連続した様子を示してもらうと、新しい街の風景の可能性も伝わったのに惜しまれます。

佳作

今川 祐希
穴吹デザイン専門学校【作品名】
つながるということ

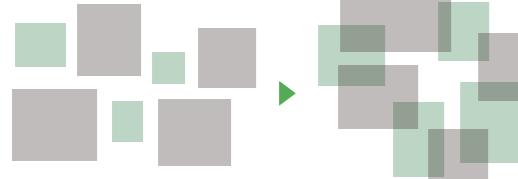
平面図



壁を立てる間隔によって、庭にみえたり、広場にみえたり、路地にみえたりする。

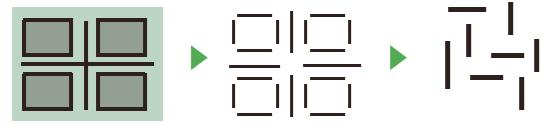


空間をフレーミングすることで人ととの間隔に変化が起きる。

ダイア
グラムそれぞれが間接的につながることで
一つの空間になる

個として存在

交じり合う



現状

分割

再構築

設計コンセプト

現在建てられている住宅の多くは、それぞれが独立して存在し、利用されている。それは広い意味でいえば家は家として、部分的にみれば部屋は部屋、庭は庭として使われている。私はこの考え方方に問題を感じた。各要素がスムーズにつながりをもつことができれば、さまざまな関係性が生まれ、楽しく使えるものではないかと考えた。こうして考えていく中で、直接関係があることだけがつながることではないと思った。つまり、間にもの

を介することでも、つながることはできるのではないかと考えた。住宅を構成するモノを分解していく、壁が堀であり、堀が壁である様に構成した。そうすることで空間に広がりが生まれ、空間同士の重なりができあがっていき、地域とつながっていくのではないかと考えた。

審査委員講評

住宅の外壁とそれが建つ住宅地域での堀のあり方に注目し、住空間を再構成するというコンセプチュアルな提案です。堀と壁を同等に扱うこと、空間に拡がりや連続性が生まれ、近隣環境とつながり、多様なコミュニティが発生することが容易に想像できます。ここで生活する人々は、おそらく、かつての大家族性のような、家族を越えた生活を愉むことができるでしょう。

審査委員特別賞

秋山 典裕
岡山理科大学【作品名】
四季折々の軒下

平面図

空いたスペースで家庭菜園を行う
縁側を北と南をつなげることで風の通り道を作る
部屋の窓を開け縁側として利用できる

平面図

1F

N

2F

連続したパブリック空間

ダイア
グラム入り口から二階の広がりを感じれる
植栽により周囲から視線を遮れる

地域住民を招き、パーティーが可能

吹き抜けにより、LDKから子供達の気配を感じることができる



LDKから緑を眺める



縁側

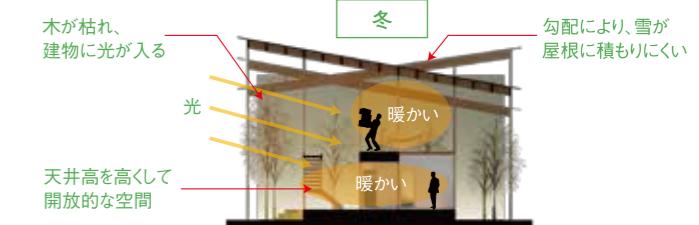


漆喰壁



自然と共に

断面図



冬

ダイア
グラム

個室以外半屋外とし、パブリック空間を増やす。



軒を変化させることにより、パブリック空間に多方向から光を取り込む。



木々を建物の周りに配置し、プライバシーの確保。日本特有の四季の変化を生活しながら感じられる。



木々に屋根を覆うことで庭と一緒に化した住宅となる。木々が住宅のファサードとなり、四季により表情を変える住宅となる。

設計コンセプト

設計コンセプト

日本では四季という特徴ある環境があり、木はその環境ごとに姿を変えている。人々はその変化から季節を感じ、愉しい生活をしている。しかし、現在の住宅は高断熱・高気密の住宅が多く、住宅の生活において自然と共生できていないため、四季の変化を感じ取れない。また、パブリック空間よりプライベート空間を重要視した住宅が増えているため、地域コミュニティが生まれにくく、地域とつながらない。

住民と読書や食事などをしながら過ごしてもらおう。また、庭を地域に開放して、地域住民と共同で菜園を行うことで、地域コミュニティが生まれる。そして、軒の高さに変化を与えることで、パブリックスペースに多方向から光や風を取り込み、より自然を感じられる空間となる。これらのことから地域と住宅がつながり、愉しめる住宅を提案する。

審査委員講評

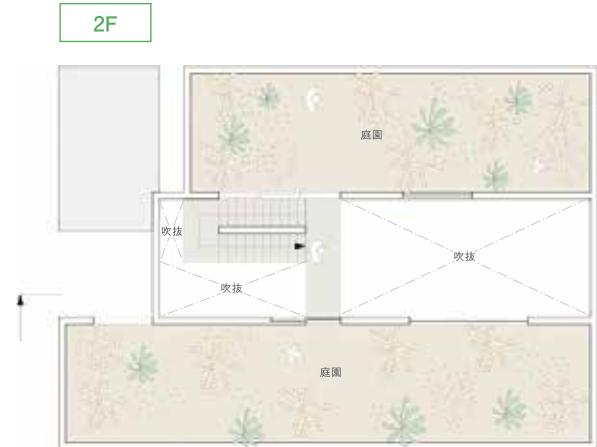
現代版物見やぐらに大きな庇をかけたといった趣を感じます。普段閉じた空間で過ごすことの多い私たちにこういった「明け透け」な家でも快適に過ごせる!と訴えかけてきます。やっぱり「リアルに人とつながりたい」ですからね。

審査委員特別賞

門田 大希
広島工業大学

【作品名】
交流の土間

平面図



立面図



断面図



設計コンセプト

敷地は農村にある農地を選定した。周辺環境は自然に囲まれており、農作業が多い過疎地域ではより人とのつながりが大切な環境である。そこで、作業や玄関としても利用している土間を設けることで、地域の人々が気軽に立ち寄れる交流の場となる。リビング・ダイニングの南側にはテラスがあり、バーベキューなどできる場を設けた。玄関がある東側は和室や

リビング・ダイニング、西側にはプライベートな空間である寝室を配置した。寝室周辺に水盤を張ることで水田とつながり、その場ならではの季節の移ろいを感じ取れる。

敷地周辺は歓喜による農作物の被害が多いため2階に家庭菜園が出来る畑を確保することで、農作物を守りながら夏は日差しを遮断する。また庇を出すこと

で夏の日差しを制限しながら光を土間に取り込んでいる。

部屋と部屋の間隔を空け、各方向に開口部を設けることでそれぞれの風景を切り取りながら風が通り抜け、土間にある上部開口部から熱を逃がす。

審査委員講評

農作物で夏の日差しを遮断する!ですか。こんな発想から未来の住宅は生まれるのかもしれませんね。

実現性はともかく、キャッチャーな提案でした。

屋根で大根を育てるしたら、どのくらいの深さが必要なのでしょうか?

なにごとも「トライ&エラー」ですからね。